

2022 年度

海外帰国生 入学試験

国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 放送の指示にしたがって、解答用紙の指定された場所にQRコードシールをはり、受験番号・氏名を記入します。
3. 試験時間は45分です。
4. 問題は、1ページから15ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出てください。
5. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された字数の8割以上は書いてください。ぬき出し問題では、指定された字数で答えてください。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

共立女子中学校

1 次の1～8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 駅から北に三分歩くとゼイムシヨがある。
- 2 走った後にコキユウをととのえる。
- 3 大きな手術なので、ユケツが必要だ。
- 4 部屋の窓を大きくカイホウする。
- 5 選手のユウシを近くで見られず残念だ。
- 6 笛は美しい音を奏でた。
- 7 この場所は終日、車をとめられません。
- 8 女性を積極的に登用する。

2

次の熟語の構成を後のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で書きなさい。ただし、同じ記号を二回以上用いてもかまいません。

- ① 着席
- ② 曲線
- ③ 永久
- ④ 未熟
- ⑤ 利害
- ⑥ 明白

- ア 同じような意味の字を組み合わせたもの
- イ 上の字が下の字をくわしく説明しているもの
- ウ 上の字が下の字を打ち消しているもの
- エ 反対の意味の字を組み合わせているもの
- オ 下の字から上の字に返って読むと意味が分かるもの

3 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

私はいま北欧ほくおう、ジャーナリストという肩書きかたがをもち、北欧の町や暮らしを紹介するガイドブックを書いたり講演をする一方で、北欧の生活道具を販売する小さなお店を営んでいます。①要するに書いたりしゃべったり、物を売ることを通じて北欧の良さを伝える仕事です。北欧とは一般的にはフィンランド、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、アイスランドの5カ国を指します。この国々を年に1〜2度ほどのペースで訪れて、取材をしたり食器や布の買い付けをしています。

「北欧」と聞いて、みなさんの頭には何が思い浮かぶでしょうか。オーロラが見られて、サンタクロースのいる北国。おしゃれな家具やデザインで有名な国。②ムーミンやマリメッコの国。社会福祉や男女平等が進んだ、国民の幸福度が高い国。日本で伝えられる北欧の主なイメージはこんなところでしょうか。

私が最初に興味をもったのは③北欧のデザインで、20年ほど前に友人に誘われて行ったフィンランドの建築家アルヴァ・アールトの展覧会がきっかけでした。ある図書館の内装を再現した展示があったのですが、木製の天井が波打つように曲線を描いていたのに驚きました。後に曲線はアールトのデザインで重要な要素であることを知のですが、その時は何もわからないまま、それでもいつかこの人の建築を生で見たいと思ったのでした。北欧に行きたかった理由はもうひとつあって、趣味で始めていたスウィングとよばれるダンスのレッスン映像を見ていた時に「この人に習ってみたい」と思ったのがスウェーデン人の先生だったのです。

はじめて北欧を旅したのは2005年の夏でした。一番の目的はフィンランドでアールトの建築を見てまわることに。そして憧れの先生が参加していたスウェーデンのダンスイベントに行くこと。家具やインテリアデザインにも興味があったのでデンマークもまわり、せっかくだからとノルウェーにも足を運び、結局2週間で北欧4カ国をまわりました。いまだこそ旅は仕事の一部となっていますが、最初はただ行って見たかっただけなのです。【ア】

初めて北欧を訪れた時に感じ、いまでも忘れない感覚があります。それは「海外に来ているのにあまり③しない」こと。アメリカや他のヨーロッパを旅した時のような③感がなかったのです。治安が良いのはもちろんですが、例えばカフェに入って注文の仕方がわからない、バスの乗り方がわからないといった不安な場面で現地の人が急かすことなく、こちらのペースに合わせて待つてくれることにほっとしたのを感じています。

旅といえば、現地の味を食べるのは楽しみなものですよ。でも私が最初に旅した頃は北欧にはおいしい物などない、とあたりまえのように

言われていました。実際に訪れてみるとライ麦のパンやチーズなどの乳製品がとてもおいしくて、夏場には新鮮なイチゴやブルーベリーが屋台で安く売られているのが魅力的でした。確かにイタリアやフランスなどグルメで知られる国と比べると北欧の食文化は地味なのですが、市場で食べた魚のスープやニシンのソテー、クリームをたっぷり使ったグラタン料理など北欧ならではの素材なおいしさは、きっと日本の人も好きになるんじゃないかなと思います。そしてその知られざるおいしさを伝えたい、「北欧はおいしくない」という決めつけをなんとか覆したい。それが私の初めての本となる『北欧のおいしい話』を書く動機となりました。【イ】

本の企画が通った2010年には食をテーマに旅をしました。話題のカフェや伝統料理を出すレストランなど、とにかく食べ歩いてインタビューもしました。現地の人には「北欧の食について書くなんて珍しいね！」とたびたび驚かれましたが、私が北欧ならではの味に興味があることを伝えると、喜んで協力してくれました。北欧の人はどこか日本人と似ているところがあって、<sup>注3</sup> シャイで口数の少ない人も多いのですが、食べ物の話は人との距離をぐっと縮めてくれる力があるんだな、とその時に思いましたね。

さて北欧のデザインに話を戻しましょう。私の店では主に1950〜70年代に生産された食器や布など、家庭で実際に使われていた生活道具を売っています。なぜ新しい物ではなく古い物を選んでいるかといえば、その時代のデザインがとくに可愛いと思うからです。見るだけで楽しい気分になり、手にとり使いたくなるデザインが多く、自分であれこれ使っているうち、友達にすすめる気持ちでお店をやってみようと思うようになりました。【ウ】

北欧で可愛いデザインが生まれたのには理由があります。冬が長く、家の中で過ごす時間が多いため、日々使う物を美しくすることが暮らしを豊かにする、との考えが生まれました。また北欧は天然資源が限られています。そのため木材などの資源が最大限にいかせるように、長く使える質とデザインの良い製品を作る必要があつたのです。こうした背景のもと第2次世界大戦後に暮らしが上向いていく中で、家具や日用品のデザインが花開きました。優れた製品が生まれるとともに、デザインをセンスよく部屋に取り入れるための講座や、啓蒙活動も盛んに行われたそうです。【エ】

北欧の町を歩いていて楽しいのは、小さな普通の家でも素敵なインテリアで暮らしていることです。友人の家を訪ねてもそう思いますし、北欧の家ではカーテンをしないことが多いので町中で通りがかつた家の中を窓越しに見ることができるので、可愛らしい部屋ばかりなのです！ 建築家アールトの自邸も見学しましたが、世界に影響を与えた偉大な建築家の家たというのにシンプルでこぢんまりとした空間で、でも照明や洗面台やドアノブなど隅々にまで洗練されたデザインが行き届いていることに<sup>注4</sup> びっくりしました。

もしみなさんが北欧で素敵な食器や生活雑貨を見つけたらと思つたら、ぜひ（注5）蚤の市を訪れてみてください。もともと豊かではない国だった経験から北欧では物を大切に使う文化が根付いていて、蚤の市が盛んなのです。掘り出し物（注6）に会えることもありますし、売主の人から北欧のデザインやブランドについて話を聞けるかもしれませぬ。【オ】

旅に出ると、⑥今後の自分を支えてくれる価値観や言葉に出会えることがあります。私が気に入っているのは、スウェーデン人がよく口にする「ラーゴム」という言葉です。「⑦」「ちようどいい」といった意味で、食事の分量から天気の話やインテリアの雰囲気（注7）を表す時にも使われます。

⑦、なんて消極的に聞こえるかもしれませんが。でも多すぎず少なすぎない、自分や社会にとって「ちようどいい」状態を知るの  
はこれからの時代を生きる上で必要な視点だと思つたのです。自然から奪（注8）いすぎないために、また働きすぎたり無理をしすぎないためにも。私の場合は、自分が何を好きで、大事にしたいのかを考えるきっかけにもなりました。

日本にもラーゴムに通じる「足るを知る」という言葉があります。日本人と北欧の人々の考え方には共通する部分もあり、そのことに気づけたのも旅をして良かったことのひとつですね。

（森 百合子「今年もまた北欧へ行ってしまふ理由」『旅が好きだ！ 21人が見つけた新たな世界への扉』河出書房新社による）

注1 ムーミン || フィンランドの作家トーベ・ヤンソンの小説・絵本などの作品に描かれた妖精（注9）

注2 マリメッコ || 洋服やインテリアなどをあつかうフィンランドの有名ブランド

注3 シヤイ || はずかしがり

注4 啓蒙活動 || 知らない人、わからない人に教える活動

注5 蚤の市 || 町や広場などで行われる古物市・フリーマーケット

1 ———線①「要するに書いたりしゃべったり、物を売ることを通して北欧の良さを伝える仕事です。」とありますが、筆者が北欧の良さを知ったきっかけは何ですか。その説明としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で書きなさい。

ア オーローラが見られる上に、サンタクロースにも出会えるフィンランドという北国に魅力を感じたから

イ おしゃれな家具やデザインにひかれ、ムーミンやマリメッコのグッズをたくさん持っていたから

ウ 社会福祉や男女平等が進んでいることや、国民の幸福度が高い国だと住むことで体験したから

エ フィンランドのアールトという建築家や、スウェーデンのダンスの先生に興味を持ったから

オ 北欧の家具を扱うお店に入り、自分もお店をやってみたい、と考えて仕入れ先を探したかったから

2 ———線②「北欧のデザイン」とありますが、その特徴としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 古い時代からずっと受け継がれてきている、伝統的な柄や形が多い。

イ 北欧は、家の中で過ごす時間が多いため、生活を豊かにいこうとする日用品が多い。

ウ 建築家アールトに代表されるように、部屋を広く見せる曲線的なデザインが多い。

エ 北欧は木材を好きだけ切れないため、ずっと使い続けられる上質な家具が多い。

オ カーテンを開める習慣がないため、家の中が見えてもよいように、カラフルな家具が多い。

3 ③にあてはまる言葉としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 安心    イ 充足    ウ 緊張    エ 挫折    オ 抵抗

- 4 — 線④ 『北欧のおいしい話』を書く動機とありますが、なぜ、『北欧のおいしい話』を書いたのでしょうか。その理由を次の文の（ ）に当てはまるかたちにして、五十文字以内で書きなさい。その際、「乳製品」「地球」という言葉を必ず用いなさい。
- ( から )

(下書き用)

から							
							40

- 5 — 線⑤ 「しびれました」とありますが、ここで使われている「しびれる」の意味としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 感覚がなくなること    イ うつとりとすること    ウ がっかりすること    エ ぼう然とすること    オ 目が覚めること
- 6 — 線⑥ 「今後の自分を支えてくれる価値観」とありますが、その説明としてふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。
- ア インテリアにまったくこだわらず、素材に生きていくこと
- イ 自分が何を大切にしたいのかだけを考えて生きていくこと
- ウ 無理をしないで仕事をして、自分の生活を充実させること
- エ 自然の恵みを用いるときは、必要最小限のものを手に入れること
- オ 日本人と北欧の人の考え方の共通点を見つけて過すこと

7

㊦

にあてはまる言葉としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア ほどほど      イ なかなか      ウ ぎりぎり      エ おいおい      オ つくづく

8 この文章中には、次の一文がぬけています。この文が当てはまる場所を文章中の【ア】～【オ】の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ちなみに北欧はどの国でも多くの人が英語を話せます。

4 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

日本人の顔について、あるいはホモ・サピエンスの顔かたちの違いについて考える前に、そもそも「顔」というものがどうやってできたのか、考えていきましょう。私たち人間は、いえ、人間だけでなくイヌもネコもゾウもアリも、顔と呼ばれるものをもっています。

頭部の前面、目、口、鼻などのある部分を顔と呼ぶわけですが、みなさんは、どうして顔という場所にだけ感覚器官が集中しているのか、不思議に思ったことはありませんか。

目は光を、耳は音を、鼻は匂いを、口の中の舌は味を感じる感覚器官です。①これらの感覚器官が、顔という場所1カ所に集まっていることには、実は深いわけがあります。

私たち人類も、他の生物と同じように、一つの細胞だけからできていく単細胞生物から進化して生じたことはみなさんご存じでしょう。この進化の結果、いろいろな動物が現れました。

私たちヒトは、魚やカエル、トカゲ、鳥、イヌやネコなどと同じく背骨をもつ動物で、脊椎動物と呼ばれています。この脊椎動物が、感覚器官が集まった顔と呼ばれる部位をもつようになった理由は、体の左右対称性と直進移動運動に深く関係しています。

まずは、左右対称性について考えてみましょう。

顔も含めて、私たちの体の形が左右対称になっていることは、誰でも知っていることです。鼻は顔の真ん中にあり、目や耳は左右に一つずつあります。右手と左手、右足と左足と、体も左右対称にできています。

でも、これは体の外形に限ったこと。ヒトの心臓や肺、胃、腸など、内臓の形や位置は非対称であることも、よく知られた事実です。では、なぜ体の外形だけが左右対称なのでしょうか。

どのようにして脊椎動物の外形が左右対称になっていったのかは、まだ明確にはなっておらず定説はありませんが、代表的な仮説として、次のようなシナリオがあります。

まず、水の中にすむ単細胞の生物が、海綿のような多細胞生物になりました。彼らは体の下の部分で岩にくっつき、体の表面にある多数の小さな孔から食物を取り込み、消化できない残りカスは体の上方にある大きな孔から水と一緒に吐き出していました。

このような生物の一部が、次の進化段階で横倒しになって這うようになり、積極的に食物を探して移動しはじめたのです。岩の上にはりついていた時代の体は「放射相称」といって、上下の区別はあっても前後左右の区別はない形でした。いわばビンのような形

です。ビンには上と下はありますが、前も後ろも右も左もありません。

ところが、ビンのような形をして岩にはりついてた生物が進化し、言うようになると、もとの「上」と「下」は新たに「前」と「後ろ」になり、上にあつた大きな孔は前にきて、「口」になったのです。さらに重力によって新たな上と下もできたので、おの自ずと左右も決まることになりました。

このシナリオでは、何の理由も示さずに、ビンのような形をした動物が横倒しになったときに、あつさりと上にあつた孔が前にきて口になった、としています。でも、動物の口がどの方向に生ずるのかは、脊椎動物がどのようにならざるを得なかったのかという問題と同じくらいに大きな問題だと言う研究者もいるほど重要です。なぜそうなったのかはさらに検討する必要があります。

しかし、最初に口が進行方向側に生じたのか、逆の側に生じたのかは ②、また、口のあるほうを前と呼ぶのか進行方向側を前と呼ぶのかという問題も ②、エサを競い合うような同じ種類の動物同士であれば、体の進行方向側に口があるほうが、エサをより早く取ることができるという点で確実に有利です。そのため、魚をはじめ、多くの泳ぐ脊椎動物は進行方向側に口をもつことになったに違いありません。

さて、次は「<sup>③</sup>なぜヒトの体の外形は左右対称で内臓は非対称なのか」という問題について考えていきたいのですが、その前に、「ヒト」という言葉について少し説明をさせてください。

すでに何度か登場しているように、この本では「ヒト」というカタカナの言葉をよく使います。これは漢字の「人」や「人間」とは少し意味合いが異なり、学名であるラテン語の「ホモ・サピエンス」に対応する和名です。純粹じゆんずいに生物として現代人（あるいは新人）のことを意味しています。

これに対して、「人」や「人間」は、多くの場合、「ヒト」に社会的・文化的性格を加味したような場合、つまりは私たちのふつうの社会における現代人を意味する場合に使います。「人類」も「ヒト」と同じような使い方をしますが、現代人（新人）だけでなく、大昔のヒトの祖先も含めて説明したいときなどに使います。こうした違いがあることを、頭の片隅かたすみかに留めておいてください。

さて、なぜヒトの体の外形は左右対称で内臓は非対称なのかという話に戻りましょう。

これについては、初期の左右対称動物の場合は、体の外形だけでなく内臓も単純に左右対称だったといわれています。それが、脊椎動物の進化の過程で、内臓の形や大きさ、働きが複雑に変化し、限られた体の中の空間を有効に使わざるを得なくなつたので、形や配置が左右非対称に

なつていったという考えが一般的です。

この進化過程を再現することは難しいのですが、1993年にT・ヨコヤマらが内臓逆位（臓器の位置が左右逆になること）を引き起こす遺伝子を初めて発見したとき、世界は大変驚きました。その後、受精卵から大人になるまでに左右非対称な内臓がどのようにつくられるのかというカラクリは少しずつ明らかにされています。

ここで、また新たな疑問が生じます。もともとは左右対称だった内臓が複雑に変化するなかで左右非対称になっていったとすると、なぜ、ヒトなど哺乳類の内臓は、限られた体内の空間に押し込められなければいけなかったのでしょうか。

これは、体の外形が変化してはいけない理由があったことと関係しています。複雑に変化した内臓を左右非対称に押し込めてでも、体の外形を高度な左右対称に保たなければいけなかった、その理由です。

何らかの原因で左右対称な動物がいったん生まれたとしても、そういう動物に不利な環境が続けば、もとに戻ったり、非対称になったりすることは、生物の進化の歴史を見れば、十分にあり得ることです。しかし、脊椎動物は魚の時代から今日まで左右対称の外形を維持してきました。

この「維持されている」という事実が、つまりは長い時間が過ぎても変わらない特徴であること自体が、左右対称であることが脊椎動物の生存にとって非常に重要であった証拠です。私たちの遠い祖先、たとえば魚のように水の中で生きていた時代でも、陸に上がったハ虫類以降の時代でも、直進移動運動をするときに、左右非対称の姿かたちをもつものよりも左右対称の姿かたちをもつもののほうが、より早くエサに到達することができ、敵や毒などの有害なものから、より速く逃げるということができるといふ点で重要だったに違いありません。

#### （ 中略 ）

このように、私たちヒトも含む哺乳類の顔は、進化の過程のなかで、口のまわりに感覚器官が一つずつ付け加わることによってできあがりました。今のような目・鼻・口・耳をもった顔が、生物の誕生の初めからあったわけでは決してありません。

この事実をどう解釈したらいいのでしょうか。

おそらく、直進移動運動をするようになったときに、体の進行方向側にある口のまわりにいろいろな感覚器官が備わっていれば、食物を仲間よりも早く感知し、食べることができたので、生存に有利だったでしょう。その結果として、口のまわりに目・鼻・耳という感覚器官が備わったものだけが生き残ったのではないかと考えられます。

せつかく哺乳類の顔の話にまで及んだので、もう一步進んで、私たちヒトも含めたサル類とそれ以外の哺乳類の顔の違いについてもお話しまししょう。

哺乳類の祖先（正確ではありませんが、身近な動物でいえば、ネズミとかリスのような小さな動物を思い浮かべてください）が、その後、いろいろな環境に適応しながら進化した結果、いろいろな動物がそれぞれ異なる顔をもっているように、さまざまな顔ができました。しかし、ここでは⑥代表としてイヌやウマなどをイメージしてください。一方、サルにもいろいろなサルがいますが、身近なニホンザルやチンパンジーなどを思い浮かべていただければよいでしょう。

イヌやウマなど四つ足の哺乳類の顔と、ニホンザルやチンパンジーなどサル類の顔を比べたときにどこがいちばん違うのかというと、⑥一般に指摘されるのは、サル以外の哺乳類では鼻（嗅覚）がものすごく発達しているのに比べて、サルは、嗅覚はそれほど鋭くない代わりに両目が正面を向いて常に立体視が可能になっている、という点です。

イヌにしてもウマにしても、サルに比べて鼻面がとても長くなっています。哺乳類は総じて食肉獣に追われる立場なので、匂いを感じて素早く逃げなければいけません。だから、嗅覚の動物と言ってもいいほど、鼻が大切なもので発達しています。

目はというと、特にウマやシカなど速く走る哺乳類は、顔の横側についています。そのため、両目の視野が重なる部分は前方の限られた領域しかありませんが、ぐるりと後ろのほうまで見えます。こうした特徴は、匂いを感じて走って逃げるといふ彼らの行動に適しています。というよりも、ウマやシカなどのなかで、たまたまこうした特徴をもったものが生き残ったということでしょう。

一方、サルの両目の視野はほとんどすべての領域で重なっていて、常に立体視ができる状態になっています。これは、サルの祖先が樹の上の生活に適応したことによって生じた特徴です。

立体視によって正確に前後方向の距離感を得られなければ、枝から枝へ飛び移ることはできません。木から落ちて、いろいろな不都合なことが起きたに違いありません。左右の目が両方とも前方を向くという特徴は、サルの生存にとつととても大切なことだったからこそ、受け継がれてきたのです。

その代わり、嗅覚は⑥相対的にそんなに重要ではなくなったので、小さくなる方向に進化しました。一般には「鼻が退化した」といわれますが、⑥私は、退化と呼ぶことには違和感を覚えます。そもそも大きくなるのがよいことで、小さくなるのが悪いわけではありません。樹上生活をするようになったサルにとつて、嗅覚がなくなつたから鼻が小さくなつたわけではなく、目がよくて立体視ができるもののほうが

生き残れたため、たまたま持ち合わせた身体的資源の範囲内<sup>はんい</sup>で立体視ができる構造が発達し、代わりに鼻は小さくなり嗅覚<sup>じゅうかく</sup>が鈍化<sup>どんか</sup>したわけで、それもまた総合的には進化なのです。

いずれにしても、祖先が樹の上で生活するようになったことで、サルはサルの顔になっていきました。ヒトも、今から1000万〜700万年前にサルの仲間から進化してきたと考えられていますので、サル類に共通する特徴をもついても不思議ではありません。

みぞぐち ゆうし  
(溝口 優司)『私の顔はどうしてこうなのか 骨から読み解く日本人のルーツ』山と溪谷社やまによる

注1 海綿 || スポンジ状の水生物

注2 相対的に || 二つのものをくらべてみて

1 ———線①「これらの感覚器官が、顔という場所に集まっていることには、実は深いわけがあります。」とありますが、その理由としてふさわしい部分を「から」に続くかたちで、文章中から三十四字で探し、初めの五字を書きぬきなさい。

2 ②にあてはまる言葉としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で書きぬきなさい。

ア またしも    イ さておき    ウ わからず    エ はたまた    オ それゆえ



6 —線⑥「私は、退化と呼ぶことには違和感を覚えます」とありますが、その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分にとって必要な器官が発達し、それ以外の部分が小さくなるのは、あたりまえと考えているから  
イ 大きくなることを進化と呼び、小さくなることを退化と分類するべきだと考えているから

ウ 物を立体的に見ることが出来るサルの方が、嗅覚が鋭いウマよりも進化していると考えているから

エ ヒトの祖先であるサルの進化の中で、一つとして退化している部分はないと考えているから

オ 鼻が小さくなっても、サルには嗅覚がなくなったわけではないと考えているから

7 この文章の内容として、ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 顔と呼ばれる部位をもつようになったのは、体の左右対称性と直進移動運動に深く関係している。

イ 岩にはりついていた時にはなかった生物の前後左右は、生物が動くようになって生まれた。

ウ 「ヒト」と「人」の違いは、社会における現代人の「ヒト」と、生物としての現代人の「人」の意味の違いである。

エ 進化の過程を考えると、ヒトが常に立体視ができるような位置に目を持っていることもうなずける。

オ 進化の過程で備わった動物の顔は、それぞれの生態や行動に適したものになっていったと考えられる。

(問題はこれで終わりです)